

鈴木康友市政の 16年を振り返る

2007(平成19)年5月1日に浜松市長に就任してから16年。4月30日をもって市長を退任するにあたり、鈴木康友市長に16年の市政運営を振り返ってもらいました。

4期16年の市政運営で 特に重視してきた取り組み

財政健全化・行財政改革

●市債(市の借金残高)2021年度末を
およそ1300億円削減

●市の職員数を2022年度末までに
1319人削減

●公共施設を656施設削減し、年間
維持管理経費を35億円削減

この16年で浜松市が
どのように成長してきたと
感じていますか？

浜松市は12市町村が合併した
ことよって、あらゆる自然条件
や産業など、日本をギュッと縮め
た国土縮図型都市となりました。
また、半分以上が過疎地域で、道路
延長も長くて、多くのインフラを
抱えていますので、行政コストが
莫大にかかってしまう、政令指定
都市20市の中でも特異な存在だと
思っています。

しかし、全国の多くの自治体が抱
える課題を凝縮した浜松の市政運
営が成功すれば、全国の自治体のモ
デルになれるという思いで、この16
年間市政運営を行ってきました。

そこで、私がまず取り組んだの
が、財政の健全化と行財政改革でし
た。さまざまな取り組みの成果もあ
り、現在の財政状況は、政令指定都
市の中でもトップクラスです。

また、大都市圏にある自治体に
比べて決して恵まれた環境にある
とは言えない浜松が、デジタルな
どさまざまな分野で日本をリード
する自治体になることができたい
ます。そういった意味では、市長に
就任した当時の思いが実現しつつ
あると思っています。

就任時に、これは絶対に
やり遂げると誓ったものが
あったら教えてください

先ほども述べましたが、行財政
改革と産業政策の二つが大きな柱
でした。

行財政改革については、行財政
改革推進審議会の答申を受けて、
職員の定員適正化や外郭団体改
革、補助金の見直しや公共施設の
統廃合などを進めてきました。そ
して最後の大きな宿題が行政区の
再編でした。そういった意味では、
おおむね宿題を終わらせることが
できたかなと思っていますし、や
りきった感があります。

大都市近郊でもない地方都市・
浜松が発展できたのは、産業のお
かげにはかなりません。産業政策
は浜松にとって命です。これまで
進めてきた施策も花が開きつつあ
ります。



就任当時の鈴木 康友 市長
(当時 49 歳)

地域経済を持続的に発展させて
いくためには、今後も継続的な取
り組みが大切ですが、私の任期中
に一定の方向性を作り出すことが
できたと思っています。

特に印象が強かったことは
どんなことですか？

2005年の12市町村による合
併については、17年以上経った今
でも、さまざまな意見があると思
いますが、私は市町村合併をして
よかったと思っています。その一
つが林業の再生です。

国産材の価値を高め、天竜の森林
を宝の山にするという理念のもと
動き出したわけですが、マーケット
が80万人に拡大しましたし、FSC
認証の取得や東京オリンピック施
設への売り込みなども、合併したか
らこそできたことだと思っています。
その結果、天竜材の付加価値や
ブランド力を向上させることに成
功し、浜松全体で天竜材を支えるこ
とができています。

合併によって不便になったこと
もあるとは思いますが、合併しな
ければできなかったこともたくさ
んあります。その象徴が林業の再
生だと思っています。

産業政策

● 中小企業の次世代自動車部品の技術開発や技術マッチングなどを支援する「次世代自動車センター浜松」を設立（2018年4月）

● 市内スタートアップに対して資金を支援する「ファンドサポート事業」を立ち上げ（2019年4月）

● 内閣府から「スタートアップ・エコシステムグローバル拠点都市」の認定を愛知県と名古屋市中心ともに受ける（2020年7月）

● 企業誘致活動により、新規立地件数が320件（2007年度～2022年度）

● 新たな工場用地として開発した「第三都田工場用地」が2021年度に全13区画¹完売

● 「FSC森林認証（国際的な森林認証制度）」で市町村別認証取得面積全国1位（2023年3月末現在 49,533.7ha）

● もつかる農業への転換に向け、農業経営塾の立ち上げ（2015年10月）

シティプロモーション

● 浜松を「出世の街」として発信（出世大名家康くんが「ゆるキャラ」[®]グランプリ2015）²「グランプリ」を獲得

これからの浜松市に期待することを教えてください

国では、デジタルの力で全国どこでも、誰もが便利で快適に暮らせる社会を目指す「デジタル田園都市国家構想」を進めています。

国がこの構想を掲げる前から、あらゆる自然がある浜松は、すでに田園都市ができあがっています。デジタルの力を活用して利便性を向上し、街の機能を高めていけば、日本をリードするデジタル田園都市になれるはずですよ。

2023年度予算のキーワードは、デジタル先導予算です。このチャンス逃すことなく、進んでほしいと思います。

市長退任後に、何かしてみたいことはありますか？

衆議院議員時代を含め、市長に就任してからもずっと走り続けてきました。元来、じっとしていることが苦手な性分ですが、市長を退任したら、時間的な余裕が少しできると思っています。

長い間、私の活動を支え、共に走ってくれた妻への感謝の気持ちとして、一緒に温泉旅行にでも行きたいと思っています。

市民の皆さんへのメッセージ

「これからの浜松のさらなる発展を願って」



鈴木 康友 市長

在職期間
2007(平成19)年5月1日～
2023(令和5)年4月30日
(在職期間16年は歴代3位)

浜松市は、市民の皆さんの健康寿命が長く、政令指定都市の幸福度ランキングでも第1位を獲得するなど、とても住みやすくいい街です。

東京などの都市部に住んでいる人たちの間でも、とても評価が高く、「浜松は自然もたくさんあっていいところですね」「都会の利便性と美しい自然を同時に楽しめ、暮らしやすそうな街ですね」とよく言われます。

しかし、住んでいる私たちが浜松の良さに気付いていないのではなにかと思ふこともあります。

浜松をつくるのは市民の皆さんです。市民一人一人が、自分が住んでいる街・浜松を愛し、そして誇り

を持つてほしいと思います。外の人からのヒントも参考に、浜松の良さを大事にしながら街づくりに取り組んでほしいと思います。

浜松には先人が培ってきた、何事にも果敢に挑戦する「やらまいか精神」があります。県庁所在地でもなく、大都市近郊でもない地方都市・浜松が、国内有数の産業都市として成長し、政令指定都市の仲間入りができたことは、誇るべき発展の歴史です。「やらまいか精神」を忘れず、何事にも常に前向きに挑戦してほしいですね。

市長在職中の16年間、市民の皆さんには市政運営にご協力いただき、誠にありがとうございました。